



せたがや小鳥の森保育園

理念

- 1、乳幼児期の子どもの最善の利益を守る保育園
- 2、親・地域の多様な子育ての要求を受け止め、
助ける保育園
- 3、すべての子どもたちが健やかに育ち、すべての
ものの生命を大切に、平和な社会をめざす保育園

めざす子ども像

- 1、心身ともに健康な子ども
- 2、自分の要求を持ち、豊かに表現し
実現しようとする子ども
- 3、自分を大切に、仲間を大切にする子ども

保育目標

- 1、子どもの人格を尊重し、子ども一人ひとりの発達を援助する
- 2、保護者と子育てを共同する
- 3、保育園の社会的役割を果たす

空を見るくせを つけてもらって育ったから
空をおもえば

鳥がとんでいる空
蝶がとんでいる空

とんぼが群がってとんでいる空など
いろんな空の風景が見える

空は

日本晴れ 曇り空 雨 夕焼け 虹

入道雲 ひこうき雲 うろこ雲 雪空など

四季の移り変わりを 美しい絵に見せてくれる

空は 季節に合わせて休まず働きつづけ

空模様に合わせて 人も働きつづける

つかれたら 空を見るといいよ
どんな空でも ほっとするから

「こころに つよく

ひびいたから」 著

阿部ヤエ 詩集より



この間2回にわたり、お年寄りとの交流として近くにある老人ホーム「フォーライフ桃郷」へ出向いて交流の機会を持ちました。1度目は5歳児が折り紙で制作したものを直接、おじいちゃん、おばあちゃんにプレゼントしたりわらべうたをうたいました。2度目はパントマイムの方を園が依頼し、4.5歳児が出向き、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に見る機会を持ちました。みている最中、一人のおばあさんが私の手を握り、永い間小学校の教員をしていたこと、「私はこの子たちが小学校へ行っても大丈夫だとわかります。たくさん子ども達を見てきたから」と話してくださいました。具体的にどのようなことということではなかったのですが、きっと、大人の話聞く姿勢をほめてくださったのかと思いました。当日5歳児のNさんは家に帰ってからお年寄りと交流したことを「楽しかった」と母親に報告したようです。核家族の世帯も多くいますので、こういう世代間の交流という体験を通して、お年寄りへの理解やおもいやりの気持ちが育っていくように人間関係を学んでいけたらと思います。

7月の予定

月	火	水	木	金	土	日
1 鳥山中学生 職場体験※	2	3	4	5 夕涼み会※	6	7
8 笹もやし	9 わらべうた※	10	11 健康診断	12	13 地域講座※	14
15	16	17 体験保育※	18 身体測定	19	20	21
22	23 産前産後※	24	25 健康診断	26 幼児誕生会	27	28
29	30	31				

※1日(月)～3日(水) 鳥山中学の生徒が職場体験に来ます。幼児クラスに1名、あひる組に1名入ります

※5日(金) 夕涼み会 17:00～ 日本女子体育大学第6体育館
(当日は夕方からカメラマンが来ます。乳児の日常写真と夕涼み会の撮影をします)

※9日(火) 加藤先生のわらべうた

※13日(土) 地域講座…ベビーヨガ体験(在園児の保護者の方も参加可能です)

※17日(水) 体験保育…園児と一緒に水遊びをします

※23日(火) 地域の妊婦さんと生後6ヶ月までのお子さんが対象です。
看護師からのお話を予定していますので、近所に対象の方が
いましたらお誘い下さい。



お知らせ

- ※夏の間、職員の研修や休暇が入ります。その間、アルバイトの学生が入りますのでよろしくお願ひします。
- ※夏が到来すると共に台風の季節になります。台風が直撃する予測がつき会社や学校がお休みになることがあると思います。そのような場合、保育園は開園しますが保護者の判断で自主登園してください。
- ※玄関前のファイルに2018年度の財務諸表を入れています。公表することになっていますので、ご自由にご覧下さい。



ある日のエピソードより・・・



1歳から2歳になるこの時期、自我の芽生えが発達の大きな特徴です。赤ちゃんとして受け身の立場から、自分の存在に気づき、何でも「自分で！」と主体的、能動的な気持ちが出てきます。これは周りの人たちと関わり、影響を受けながら自立へと繋がる大切な気持ちなのですが、私も母になり自我と関わる大変さが身に染みている毎日です。特に時間のない朝は「やめて～」とついイライラ。毎日どこにイヤイヤスイッチがあるのか分からない娘とやりとりの日々です。

自我の強くなったはと組でも「イヤー」「やだ！」「だめー！」「○○ちゃんの！」がいたるところで聞こえてきます。いよいよ大変になってきたと思う中で、子どもたちの成長ぶりに驚きと感動の日々です。

小鳥の森にはシンボルマークがあります。はと組ではマークと顔写真の絵本を作り、子どもたちと見えています。新入園児のマークや名前も覚えてしまい、マークを見せ「だれのマーク？」と聞くと「○○ちゃん！」「○○くん！」と答えたり、その子の所まで行って指をさしたりします。自分のマークが出てくると歓声をあげ、「○○ちゃんの！」と自分の名前を大きな声で教えてくれるなどの姿に自分の存在、他人の存在に気付いて興味を持っているんだなと感じます。

6月のはじめ、熱で3人お休みになった日がありました。午前いつも通りに過ごしていたAちゃん。食事に入ると突然隣の空いた席(Bちゃんの席)を見て「Bちゃんいない」と言い、続けて「Cちゃん」「Dくんも」と休んだ子どもの名前を見事に言い当てていました。「いないね～お熱でちゃったんだって」と言うと、「うーん」と真剣な顔で返事をしていた姿がとても印象的でした。もともと友達が好きで名前やマークもすぐに覚えてしまったAちゃん。誰がお休みか瞬時に言うことができたのできっと朝からお休みだということに気づいていたんだらうなと思いました。言葉にはしなくても毎日一緒に過ごしている友達のことをいつも気にかけているということがよくわかりました。

この時期自分でしたい気持ちの他に、他者と関わりたい気持ちも出てきます。物や場所の取り合いなどトラブルに発展してしまうことがしばしばですが、その中で「かして」「どうぞ」「いいよ」と子どもたち発信で言えている姿、譲れている姿が見られるようになってきました。テラスでマットの橋を作りみんなで渡っている時Eくんも挑戦していました。友達が急に近くに來たりすると押してしまうことが多い中、大人が見ているから大丈夫！順番だから待っててねと繰り返し励ましているとそのうち「じゅんぼん」と言って待てる姿が出てきました。「できたね！」と認めるととても嬉しそうな顔で「できた」と返してくれました。どうしたらうまくできるのかを子どもなりに考えて実践している姿は成長を感じる瞬間です。

この3か月の中でも子どもたちは大きく成長しています。一つ一つの経験が子どもたちの生きる力に結びつくように保育士として、何度も繰り返し伝え、認め、共にできた喜びを感じていきたいと思います。

はと組保育士



幼児クラスの課業の一つに「環境認識」というものがあり、6月は私が担当しました。テーマを『虫』、ねらい「身近な虫の親子の姿や生息地を知り、園庭や戸外で観察や虫への興味に繋げる。虫の親子を結びつける、姿が同じこと違うことを知る」と設定し行いました。

4月から幼児クラスを担当し子どもたちと関わっていますが、「虫が好き！虫への関心が高い！」という印象があります。園庭では・・・すずめさんは花壇の土の所でダンゴムシ探し。見つけてはバケツに採集。背中を丸めて、頭を突き合わせて探す姿がなんともかわいらしい(ダンゴムシみたい♡)。ライオン公園では・・・虫あみと

虫かごを持参し、かもめ・たかさんを中心にモンシロチョウ・アゲハチョウ採集。虫あみに限りがあるのでない子は素手でも捕まえます！（スゴイです！）時には帽子が虫あみ代わりに…。などなどの姿から虫に対する興味、愛が溢れていることを感じます。そんな普段の子どもたちの姿から、6月の環境認識のテーマを「虫」にしました。

当日「今日は虫の話をするよ～」と子どもたちに伝え、私が準備をし始めると子どもたち自らイスを並べ始め、集まってきました。始める頃にはほぼ全員が参加。

まず初めにこれまでに見たり、捕まえたりした虫の名前を子どもたちにあげてもらいました。「ダンゴムシ」「アゲハチョウ」「あり」「カマキリ」など次々に名前があがります。その都度写真に収めていたので、それをプリントアウトしたものを見せながら子どもたちと虫を整理。5月に実体験で「いもむし→アゲハチョウ」になる過程も観察できたので、そんなこともあったよね～と振り返りながら進め、虫クイズにつなげます。一つの虫を赤ちゃんの姿・子どもの姿・大人の姿、それぞれの写真を用意し、それを分類するクイズ。1問目！アゲハチョウの写真を見せてコレは赤ちゃん？子ども？大人？と質問し子どもたちに思うものに手を挙げてもらいました。すずめの子3人くらいは赤ちゃんに手を挙げていましたが、他は大人の姿に手を挙げていました。その後も子どもたちの中から代表が出てきてもらい分類、みんなで確認していきました。みんなとても意欲的で「やりたい！」「ハイ！ハイ！」と、熱気むんむん、大盛り上がるの虫クイズでした。虫の親子の姿が結び付いていて改めて子どもたちの虫の知識の高さを実感しました。

最後に「今日やった虫の中の一つ、虫の赤ちゃんを連れてきたよ～」と話し…“カブトムシの幼虫”を観察しました。（虫の中でもカブトムシ・クワガタが人気があったので、毎年新潟の実家でとれる幼虫を送ってもらいました！）いつも図鑑で見っていた幼虫を生で見えて感じてほしかったので用意しました。すでにさなぎになっているモノがほとんどでした。その後も観察を続け、6月末には脱皮し、成虫になり飼育観察続行中です。

幼児になるとこういった全体で話をする時間も多くなります。そこでの話は“子どもが主体”になるようにすすめています。大人が教え込むのではなく、子どもが興味・関心を持ち自ら学ぶことに意味があります。子どものもっている可能性や良さを引き出すこと、自分で感じること。子どもの興味から出発し→知りたい→調べる・学ぶ→知識として吸収→それを人に話す・伝える(表現)→自分のモノになっていく・・・この繰り返し積み重ねが子どもの力になっていきます。自らが知りたい・やりたい・～したいと意欲をもつことは、学習(学びに向かう力)にも、人とのコミュニケーションにも全てに関わる大切な力だと思います。今後も保育園という集団の中で子どもたちが自分を表現し、人との関わりを持ちながら、好きなことに夢中になれる環境を整えていきたいと思えます。

幼児クラス保育士

虫クイズの様子



カブトムシ脱皮したよ！

